

学校教育目標	考える子(考える力づくり) 思いやりのある子(仲よしづくり) がんばりぬく子(体と心づくり)
目指す学校像	一人ひとりが輝き、学ぶ喜びと笑顔があふれる学校
重点目標	1 確かな学力の定着と向上を目指す学校づくり 2 豊かな心と健やかな体の育成を目指す学校づくり 3 地域に開かれた特色ある学校づくり 4 安全で美しい学校づくり 5 教職員の指導力向上を目指す学校づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和8年2月17日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学びの質の向上	(現状) ○授業では、意欲的に取り組む児童が多くいる一方、集中力を欠いている児童も少なくない。 ○令和6年度さいたま市学習状況調査の結果から、3・4年生(国語・算数)、5・6年生(国語・算数・社会・理科)の平均正答率は、ほぼさいたま市の平均を下回っている。 (課題) ○学ぶことの楽しさや学びに対する興味・関心を高め、学びの達成感や充実感を味わえるようにする必要がある。 ○反復や習熟に取り組む時間や、自らの学びを振り返る時間の確保しつつ、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ることが必要である。	○達成感や充実感を味わえるよう、個々の学習指導と支援をより大切にしたい授業の工夫	①個に応じた細やかな指導と支援をする。 ②めあてを明確にし、振り返りを行う。 ③デジタルドリル等を活用した練習問題に計画的に取り組めるようにする。 ④学力向上カウンセラー研修と各学力調査の結果の分析に基づいた授業改善を行う。	・児童の学校評価 No2「わかりやすく楽しい学習」と、No3「基礎的な計算や漢字の定着」で肯定的評価がともに昨年度より2%以上向上できたか。 ・学力向上カウンセラー研修と学力調査の結果の分析に基づく授業改善の方策を立て、実施することができたか。	・児童の学校評価No2では3%、No3では1%となり肯定的評価がやや向上した。 ・授業改善については、反復して文章を読ませて正確な読み取りができる活動や、児童が決めたり選んだりする活動や、児童同士が考えを交流できる活動を取り入れてきた。	B	・各教科を関連付けて、「意欲をもって取り組み、粘り強く頑張る力」を身に付けられるようにする。 ・漢字や計算の反復練習に取り組む。 ・個に応じた指導と支援を継続する。 ・文章を丁寧に読むこと、友達と協力して学ぶことを各教科で取り組む。	・学校評価アンケートにおいて児童の回答で向上が見られた部分があるのは成果だと思う。 ・方策の評価指標に対して、しっかりと取り組んでおり、評価にも現れているので、「概ね達成」と言ってもよいのではないかと。
		○ICTを活用して、児童と教師が共に学び合う授業の工夫	①学習用端末を活用し、意見交流など児童同士が学び合う授業を行う。 ②学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を取り入れて主体的に学ぶ授業を行う。 ③指導者を要請した算数科の校内授業研究会を3回実施し、教員の指導力の向上に生かす。	・児童の学校評価 No4「考える力と学ぶ力」と、No10「学習用端末を活用した授業」で肯定的評価がともに昨年度より2%以上向上できたか。 ・指導者を要請した校内授業研究会を3回以上実施し、授業改善ができたか。	・児童の学校評価No4では-1%、No10では±0%となり肯定的評価にあまり変化がなかった。 ・指導者を招聘し、校内授業研究会を3回実施できた。算数科における自力解決の言葉かけやICTを活用し個に応じた学びの工夫などを行うことができた。	B	・新しい端末を活用して自分の考えをもつこと、表現すること、交流することを各教科で取り組む。 ・学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を取り入れて主体的に学ぶ授業を継続する。	
2 児童への支援	(現状) ○楽しそうに学校生活を送る児童が多く見られる。令和6年度児童の学校評価では、「喜んで登校している」で肯定的評価は83%となっている。 ○定期的にSolaの一むの利用がある。 ○月1日教育相談日を設けている。 (課題) ○良好な友達関係を築き、継続できるようにすることが必要である。また、保護者との連携も大切に、共通理解を図る必要がある。 ○学習や友人関係等によるストレスを抱える児童が少なくないため、児童の表情や心の変化を見逃さないよう一人ひとりの様子を把握し、迅速に支援・相談できる体制が必要である。	○児童一人ひとりの理解に基づいた指導と支援の充実	①担任をはじめ、学年の教員、専科教員等複数の目で児童の様子を見る体制を整える。 ②SODBや各種アンケート等を活用して児童の様子を把握し、個に応じた指導・支援を速やかに行う。 ③率先垂範を心掛けるとともに、共通理解のもと、生徒指導を行う。	・児童の学校評価 No8「先生への相談」で肯定的評価が昨年度より2%以上向上できたか。 ・いじめをはじめ友人関係の問題を覚知した際には、「報・連・相・見守り」のもと組織的に対応することができたか。	・児童の学校評価No8では1%の向上となり肯定的評価にあまり変化がなかった。 ・いじめをはじめ友人関係の問題を覚知した際には、「報・連・相・見守り」のもと、管理職・担任・学年・生徒指導主任等が参集し、対応を協議し、速やかな対応をすることができた。	B	・教科担任制や交換授業などを活用し、複数の目で児童の様子を把握し、児童を指導・支援できるようにする。 ・毅然とした態度、率先垂範を心掛けるとともに、組織的に生徒指導、教育相談を行う。 ・担任等のふれあいを大事にする。	・いじめの対応については、今後も丁寧に対応してほしい。 ・児童への指導に加え、最近は保護者の対応も大変だと聞いている。児童同士の問題の中に保護者の心情が入っていることも聞くので、学校運営協議会が第三者的な立場で学校に協力できたらと思う。 ・登下校中のあいさつについては、保護者からも意見を出しているため、家庭と連携して改善できるように努めてほしい。
		○児童一人ひとりに寄り添って、保護者と連携した教育相談の充実	①教育相談日等を活用して児童の様子や支援について共通理解を行う。 ②Solaの一むを活用して、児童の安心・安全な居場所の確保と、学習支援を行う。 ③SCやSSW、関係機関と連携して、支援方法の改善を行う。	・教育相談日等の機会を通して、学校・専門家・関係機関・家庭とのつながりを築くことができたか。 ・Solaの一む等を活用し、居場所と学びの場を確保することができたか。	・教育相談日の案内や申込をデジタル化した。教員や養護教諭、専門家、関係機関との連携を進められた。 ・Solaの一む等を活用し、居場所と学びの場を確保することができた。また教員やSSWが対応できるようにもした。	A	・教育相談日等をはじめ、日頃から保護者と連絡を取り合う。 ・Solaの一む等児童の安心・安全な居場所の確保を継続する。 ・SCやSSW、関係機関と連携して、支援方法の改善に努める。	
3 地域とともにある学校	(現状) ○学校運営協議会にて、目指す児童の姿について熟議している。また、城北中学校と年1回の学校運営協議会を共催している。 ○連絡ツールを活用し、学校・学年たより等のお手紙が保護者に確実に届くようにしている。 (課題) ○学校運営協議会における熟議の内容を、家庭や地域に周知していく必要がある。 ○学校Webページ等を活用して、学校生活の様子や教育活動への理解を高める必要がある。	○児童の愛校心や学校への誇り等を一層高める学校づくりの推進	①学校だより等を活用して、児童・保護者の皆様・地域の方々に開校50年の歩みを紹介する。 ②PTAや学校運営協議会と協力し開校50年記念行事を計画的に実施する。	・計画した記念行事を実施することができたか。 ・記念行事実施後、愛校心や学校への誇りに関するアンケートにおいて、児童の肯定的回答が60%以上にできたか。	・城北祭、木目込み体験、式典、式典に関わる諸活動が計画通りに実施することができた。 ・愛校心や学校への誇りに関するアンケートでは肯定的回答が約77%となった。	A	・今年度の記念行事や、児童・保護者・学校運営協議会の意見を生かし、地域と歩む学校を創造できるようにする。	・開校50年記念行事によって、地域の在り方や児童への関わり方を含め、「地域で子どもを育てる」意識の向上が図られ、大きな成果だ。 ・保護者や地域の信頼を高める取組について、アンケートの結果で評価指標が2%のところ、3%、5%と向上しているので、「ほぼ達成した」と捉えてよいのではないかと。
		○保護者や地域の方々の信頼を高める取組の推進	①保護者へ確実に連絡やお知らせが届くように、さいたま市学校安心メールや連絡ツールを着実に運用する。 ②学校Webページを月1回以上、ブログを年60回以上更新し、教育活動の発信を行う。	・保護者の学校評価 No9「お便りを読む」No10「学校の様子の発信」の肯定的評価が昨年度より2%以上向上できたか。	・保護者の学校評価No9では3%、No10では5%の肯定的評価の向上となった。	A	・さいたま市学校安心メールと連絡ツールの確実な運用をする。 ・城北小ブログを活用して、教育活動の発信に努め、信頼を高める一助とする。	
4 教育環境	(現状) ○開校50年目となり、校舎内や体育館内で修繕を必要とする箇所が多く見られる。 (課題) ○児童や教職員等の安全を考え、教育委員会に粘り強く交渉するとともに、優先順位をつけて学校配当予算で対応する必要がある。	○安全・安心で落ち着いた教育環境整備の実現	①管理職や事務主事、用務員と連携した課業日の校舎内外巡視を実施する。 ②教育環境の整備と教材の充実に向け、全職員で安全点検を実施する。	・毎月安全点検が実施できたか。 ・施設、備品の点検を通して、環境が整備された状況を実現できたか。	・毎月安全点検は実施できた。 ・教材準備室の整理を進めることができた。	B	・危険予測を大事にさせた環境整備に取り組む。 ・管理職をはじめ、教職員全員で安全点検ができる体制づくりをする。	・児童が安心・安全な生活ができるよう、今後も環境整備を続けていってほしい。 ・環境整備は継続に至っていないとあるが、改善が図られているので「概ね達成」でよいのではないかと。
		○児童が学びやすい環境整備の実現	①教室や特別教室において、児童が学びやすい環境整備を行う。	・教職員が意識して、児童が学びやすい環境整備を継続できたか。	・改善は見られ、継続には至っていないところもある。引き続き取り組む。	B	・教室内や昇降口等児童目線に立った環境整備を行う。	
5 教職員のキャリア形成	(現状) ○経験の浅い教員が多く、中堅・ベテラン教員の助言・指導の下、児童の指導に当たっている。 ○意欲をもって、指導力を高めようとしている。 (課題) ○教員間での授業や生徒指導、学級経営等の指導力について改善を図る必要がある。 ○OJTによる教職員の学びを進める必要がある。 ○教職員の成長が実感できる研修や対話に基づく受講奨励を通して、主体的な教師の学びが必要である。	○明るさのある職場づくりの実現	①教職員同士のコミュニケーションを大切にするとともに、お互いの業務に興味・関心を高めるようにする。 ②こまめな教室訪問とコーチングを心掛け、教職員の業務の様子をよく把握し、適切な支援と指導を行う。	・授業や行事等における協力体制を高めることができたか。 ・職場環境と満足度を高めることができたか。	・学年内や部内で協力して、活動できるようにした。支援について具体的な指示もできた。 ・少しの向上は見られるものの、引き続き取り組んでいく。	A	・教職員同士のコミュニケーションを一層大切にさせる。 ・ゆとりある業務ができるようにする。 ・教職員との対話を一層行い、健康状態や業務の様子を把握し、適切な支援や助言を行う。	・学校行事等で学校を訪れた時も先生方は明るく、児童への接し方もよいと感じている。今後も続けてほしい。
		○教職員を育成する学校経営の実現	①OJTによる経験の浅い教職員の育成と、キャリアに応じた研修の受講奨励を行う。 ②「やるべきこと」と「やりたいこと」を明らかにし、教職員の主体的な学びを推進する。	・教職員の主体的な学びを進めることができたか。 ・新たなミドルリーダーを育成することができたか。	・自ら研修会に参加したり、新しいことに挑戦したりする姿が見られた。 ・ミドルリーダーとして自覚した行動をする職員が複数見られた。	A	・OJTや教員相互の授業観察に取り組む。 ・キャリアに応じた研修会への参加意識や、学校経営への参画意識の更なる醸成に努める。	